

ちかこ だより

創刊号 2018.12



「お寺でハロウィン?!」
ハロウィンタウン椎名町 (10月27日)

2016年にスタートし、今年3回目、すっかり秋の恒例行事となった「ハロウィンタウン椎名町」でのイベント風景。町会のほか地域の商店約36店舗が協力、企業も協賛し、金剛院に集合して3つのコースにわかれて練り歩きます。年々大規模になり、今年は約360人が参加、子どもたちは大はしゃぎ! オトナもノリノリ! 「NPO法人クローバーもパレードの立ち寄り拠点になっているので、当日ショートステイの利用がなく空いていれば、子どもたちがわんさか上がり込んで遊んでいたり、自由に風呂に入っていたり(笑)したこともありました」

(NPO法人クローバー 藤井さん談)



豊島区民活動センターが設置されて12年。「豊島区地域活動交流センター」に改称し、イケブス4階に新装オープンして1年。これからの地域活動を区民のみならず、共に考えるニューズレター「ちかこだより」を創刊しました!

現在、定期的にミーティングを開いて、それぞれの立場で気づいた地域課題などを話し合い、新しい連携、重層的な協力関係をつくらうと活動しています。

9月には8つの団体代表が集まりワークショップを開催。導き出された共通目標は、「豊島で暮らし、お互いを育てる」「豊島を知ろうよ」でした。

そこで、豊島区の地域活動をもっと広く知ってもらうため、メンバーによる座談会の様子をこの創刊号でご紹介することになりました。

私が願う「暮らしやすさ」について語ろう

森(司会)：…ではまず、お互いの活動について紹介をお願いします。

藤井：私は椎名町育ちなのですが、小3のとき、近くに児童館ができました。ボランティア団体の大学生が来てくれて、障害のある子どもと一緒に遊んだり、おやつを食べたり、遠足に行ったりしていました。あるとき、自閉症の子が北海道の施設に入るようになったと聞かれました。「えっ?家で暮らせなくてどういうこと?」と、中学生になっていた私は、大人たちに詰め寄った記憶があります。

その後、団体は単に余暇を楽しむ活動だけでなく、日常の生活を支えるという方向に拡大していき、ヘルパー派遣やショートステイ事業も行う現在のNPO法人クローバーへと発展しました。

クローバーの利用者のなかには学校や施設に通えずに、クローバーに通っている人もいます。学校の先生や施設職員がクローバーに様子を見に来たりするなど、大勢で支え合うことで、障がいのある人が長く地域で生活を続けられることを願って活動を行っています。(次ページに続く)

地域活動交流告知ボード

お知らせ

NPO法人 クローバー

障がいのある人が地域の中で暮らしを続けていくためにヘルパー派遣、ショートステイ、相談支援を行なっています。1階の店舗では、主に金曜日の日中に地域の作家さんたちの商品を販売。コーヒーも飲みますのでぜひ気軽にお立ち寄りください。

ホームページ：
www.npo-clover.net
メール：
honbu@npo-clover.net
(担当：ひだい)



募集中

NPO法人 TENOHASI

「ホームレス」の方々への炊き出し・夜回り・生活相談・シェルター提供などを通して、新たな生活を営むお手伝いをしています。調理・トラック運転・事務・部屋探しなどさまざまなボランティアを募集中!
(担当/清野)
メール: tenohasi@yahoo.co.jp



お知らせ

NPO法人 コレクティブ・ハウジング社

人とのつながりをつくり、心豊かに暮らす仕組みを持つ住まい方「コレクティブハウジング」。子育てを周りのみんなと協力したり、一人でも暮らしの中に仲間との会話があたり。住みたい人も、空き家を活用したい人も、お気軽にご相談ください。
(担当/狩野)
ホームページ：www.chc.or.jp



参加者募集

NPO法人 なやまんと

「地域課題を解決する会」参加者募集

「元気で健全な高齢化CITY豊島」の創造「国際化都市としま」の実現に向けて毎月2回、勉強会を開催中。ぜひご参加ください。

(担当/工藤)
豊島区東池袋4-5-1エアライズタワー 403
電話：03-6914-1520
ホームページ：www.npo-nayamanto.jp
メール：info@npo-nayamanto.jp



仲間募集

JAMESの紙芝居

日本独自の文化「紙芝居」は10分足らずで観客をひきこむ不思議な力をもっています。豊島区内の公園や保育園、病院などで、紙芝居を通して、子どもたちや高齢者を元気にする活動に参加しませんか?
紙芝居の小道具づくり、声の出し方、間のとり方など演じ方を学ぶ「紙芝居研究会」も毎月行っています。やってみたい方年齢性別不問、ご連絡をお待ちしています。

携帯：080-4077-7011 (担当/高井)

お知らせ

グループとしまる

自分たちが生活する地域で、つながる「場所」があったらいいな、という思いを同じくする人に呼びかけて、ネットワークづくりをしています。ミニイベントをお不定期で開催中。Facebookページにお知らせをアップしていきますので、「いいね!」をお願いします。(担当/塚田)
Facebookページ：www.facebook.com/グループとしまる-1639281766122517/



お知らせ

NPO法人 あおぞらスクール

「あおぞらスクール」は幼児～中・高校生を対象に、年間を通じて遠足やキャンプ、職業体験など、年齢に応じたプログラムを行っています。設立当初の10年前とは子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していますが、これからの子どもたちの未来を見据えて活動していきたいと思っています。(担当/國府田)

Facebookページ：www.facebook.com/NPO-法人-あおぞら-スクール-271015366725877/

お知らせ

NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター

もし3.11のような大災害が東京で起きたら…食料は、エネルギーはどうする? →答えは都市農村交流です。自分の疎開先や食料供給先を持ちましょう。埼玉県比企郡をはじめチカイナカの田畑や古民家、人を紹介します。(担当/森)

ホームページ：npo-ecom.jimdo.com
メール：ngo-ecom@gaea.ocn.ne.jp



地域活動交流センター

区内の地域活動団体への支援や交流のための施設です。
総合受付時間：月～土 10:00～12:00、13:00～18:30 (年末年始、日祝日、イケブス休館日は定休)

【区民活動支援講座のご案内】

地域活動の支援を目的に区が実施している講座です。





ちかこだより 創刊号 発行日 2018年12月1日
発行者 豊島区地域活動交流センター運営協議会
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-37-4 としま産業振興プラザ4階
<http://npsc-toshima.sakura.ne.jp/>

地域活動交流センターの最新情報はこちらから





合同キャンパ



地域でハロウィン (クローバー)



そらめん流し (コレクティブハウジング社)

【座談会】豊島区で暮らし続けたい！



要町あやの(ぼんぼり)・豊島区民と埼玉県比企郡



味噌づくりを学ぶ (江ノコ・コミュニティーセンター)



座談会の様子

「たった5分が10分で、ずっと人の心に入り込める紙芝居ってすごいですね」と言われ、私自身も紙芝居の底力を感じました。皆さんの活動にも、ぜひ私を使っていたらいいと思います。

私の活動のキャッチフレーズは「笑顔と生きる喜びを伝える」なのですが、オファーがいつぱいあって人手が足りません。一緒に紙芝居をしてくれる方も募集しています。

塚田：私は生活クラブの組合員の仲間と、**グループとしま**という地域の居場所づくりを行う活動を3年ほど行っています。地域と何一つ接点がない、つながりたいたいけれどどう参加していけるのかわからないとい

地域活動交流センター紹介

地域活動交流センターとは

「としま産業振興プラザ (IKE-Biz)」4階、地域活動に興味がある方ならどなたでも利用できる「情報収集や交流のためのスペース」です。地域活動に関するイベント等のチラシが収集できたり、随時無料のミニセミナーなども開催されています。



団体登録のすすめ

登録団体は、作業コーナーや会議室（予約制）が利用できます。また、登録団体の皆様と「運営協議会」を組織し、定例会で施設の利用や運営方法を検討しています。その中で他の団体の人と知り合えたり、活動に必要なネットワークづくりも行うことができます。

団体登録の要件

1. 公益性のある活動であること
2. 区内で活動を継続していること
3. 区内のNPO法人、または構成員4名以上のうち、区内在住・在勤・在学者が2名以上の団体
4. 特定の政治活動、宗教活動を行う団体ではないこと
5. 営利を主目的とした団体ではないこと
6. 定款・会則等があり、会計の処理が適正になされていること
7. センターの運営や事業に協力すること

登録申請窓口

区民部 区民活動推進課
協働推進グループ TEL 03-4566-2314
(豊島区南池袋 2-45-1 区庁舎 6階 13番窓口)



座談会の様子

清野：NPO法人TENOHASIの場合は、12年前に路上生活者のための炊き出しから始まりました。彼らを行政につなげるまでが最初の頃の活動だったのですが、行政が提供する施設生活がいやで、また路上に戻ってしまう方が多くあり、これでは支援したことにならないなど。それで10年ほど前から他団体と一緒にグループホームを作ったり、「日中活動プログラム」としてパンを焼いて販売したりしています。

昨日はギターとキーボードの人が来てくれて、皆で歌を歌おうという会をやりました。生力オケで2時間で23曲も歌うなんて、贅沢ですよ(笑)。元路上生活者の人たちも、こういうボランティア活動なら自分も地域のためにできるかもしれないと思いついてます。この先は普通の独居のおじちゃんとなっていく(笑) わけなので、地域の中に溶け込んでいって、皆さんとも一緒にやれることがあるといいなあと思っています。

TENOHASIに来ることが癒しになっていると言って、来てくれる人もいます。元路上生活者だけでなく、地域で孤立している生活保護の人、独身女性やおばちゃんなども「行けば誰かいる」「年金支給日前に味噌醤油を融通しあえる」というような、場ができたらいいなあと思っています。

森：最近、子どもの自己肯定感が低いとかって言われているけど、大人などは、この運営協議会が開催している「社会貢献活動見本市」でも発表させていただきました。

今、子どもたちを取りまく環境がスピーディに変化しています。デジタル化や、2年後の学校カリキュラムの改定、学校の先生の忙しさや、共働きで日中いない家庭の増加など、さまざまな状況を考えながら、新しい活動のあり方を模索しているところですよ。

森：私はNPO法人江ノコ・コミュニティセンターを、1993年に任意団体として始めました。きっかけはその前に子どもたちの自然教室のボランティアをやっており、世の中にこんなに面白いことがあるなら仕事にしてしまおうと独立したのです。

地域で活動を始めたときに、大事なのは個別のテーマより、地域の人自身が問題を解決する力を広げる

たちもそうですよ。まちの中で孤立して暮らしている…。
狩野：人間って、他人から見られてずっと気取っている状態ではいられないじゃないですか。失敗したり、ちよつとカッコ悪いことになってしまっても、ありのままの自分でコミュニケーションができる場があるのっていいですよ。

私たちのNPO法人コレクティブハウジング社では、コモンスペースを持った集合住宅という枠組みで、そんなコミュニティを作ろうとしています。街中で急に知らない人とながるというのは難しいけれども、集合住宅の中で日常生活の一部共同化する、たとえば食事を皆のぶん作って食べる、ガーデニングを当番でやる、育児を助け合うといったところから信頼関係が育まれるのではと思っています。

自分だけで頑張るのではなく、皆で担えばできることが広がって、ゆるやかな人間関係が生まれます。先日は町内会長やPTA、地域の民生委員さんをコレクティブハウスのイベントにお招きしました。コレクティブハウスという暮らし方がよくわかったと言っていたら、そのつながりから、コミュニティンシャールワーカーの方と地域の課題を話し合う機会を得ました。今後、クローバーさんやTENOHASIさんとも結び付けていけるといいなと思っています。

工藤：私はおばあちゃん子で育ち、ことだと気づき、「コミュニティエンパワーメント」にミッションを変更しました。

活動の柱としているのはF（フード）E（エナジー）C（ケア）の自給。食料とエネルギーなしには生活できないのに、日本は近くにあるものを使わずに、海外に頼りすぎています。そこを根本的に改めたいと、身近な「FEC自給圏」づくりを指しています。

具体的には、豊島区民と埼玉県比企郡にある古民家クラブが交流して行き来をしたり、また、皆さんがつかられるような居場所や事務所の一画をお借りして、週に1度の地域産品マーケットを開くなどアンテナショップのネットワークを作っていくことです。豊島区と近隣農村との関係人口を広げるということに取り組んでいきたいと思っています。



座談会の様子

今でもお年寄りが一人でぼつんとしているのを見るのが耐えられないんです。寂しいお年寄りをなくしたい。ただ、この地域活動交流センターで皆さんと出会ったことで、健康的に生きるスキルや生きがいだけでなく、メなだた気づかされました。この豊島区で「仲間とともに」、活動する「場所」を与えてあげないと、健康と生きがいを持続しません。

ですのでNPO法人なやまんとでは、広報紙を発行していて、ボランティア活動のお誘いをしていきます。新住民の方の多くは、自分が豊島区民になったとはあまり意識していません。「自分も地域のためになにかやろう」というきっかけに、広報紙がなれたらと思っています。

それから、お年寄りを元気にするために、介護施設で働く人たちももっと大切にしていかなければいけない。それも活動の柱にしています。

高井：私はJAMESの紙芝居を、3年前ほどに南池袋公園で子どもたちを相手に始めましたが、その後、高齢者施設や小児病院など、いろいろな場所へ呼ばれて行くようになりました。

高井：私はJAMESの紙芝居を、3年前ほどに南池袋公園で子どもたちを相手に始めましたが、その後、高齢者施設や小児病院など、いろいろな場所へ呼ばれて行くようになりました。

高井：私はJAMESの紙芝居を、3年前ほどに南池袋公園で子どもたちを相手に始めましたが、その後、高齢者施設や小児病院など、いろいろな場所へ呼ばれて行くようになりました。

高井：私はJAMESの紙芝居を、3年前ほどに南池袋公園で子どもたちを相手に始めましたが、その後、高齢者施設や小児病院など、いろいろな場所へ呼ばれて行くようになりました。